日刊
動労千葉
84. 4. 16
No. 1618
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

「平野君殉職に謝罪し、運転保安に全力でとりくむ」

当局・伊東局長が団交で確約（4/9）

平野君の無念と1300の実力、当局をつき動かす

動労千葉は内達―動乗勤の集約にあたって行った、四月四日のトップ交渉における「対立している問題点については、誠意をもって交渉で整理する」との確認にふまえ、四月九日に千鉄局長も出席しての団体交渉を行い「平野君殉職事故」に対する局長の謝罪と運転保安確立に全力で取り組むことの確認をかちとりました。

当局の責任を反省している
―伊東局長が謝罪―

団体交渉には、伊東局長をはじめ、総務、運転、施設部長、関係各課長が出席し、冒頭、山口副委員長から「3・30平野君殉職事故」が当局の運転保安要求無視により起こるべくして起きた事故であり、責任はあげて当局にあるとの立場から運転保安に対する当局の基本的考え方をただしました。

これに対して局長は、「過日の踏切事故は、もし遮断棒があればミキサー車が入ってこなかっただろうし、尊い命が失われずにすんだという前提にたって、当局が平野君を殺したというならその批難を否定するものではありません。ここが危ないという、乗務員の立場からの貴重な情報を具体的にとりあげなかったことを反省しています。運転保安の確立については大事なことであり、通り一ぺんでいうつもりはありません。具体的には踏切対策委員会をつくって、五九年度は五八年度より多く踏切を改善したい。空念仏では納得していただけないと思いますので、具体的に直していくという実績をもって理解していただきたい」と団体交渉の席で正式に故・平野君および組合に対して謝罪し、今後の姿勢について述べました。

職場要求無視―合理化強行の当局姿勢が事故を生んでいる
―中野委員長が当局を鋭く弾劾―

ついで、中野委員長が、これまで動労千葉が運転保安上の問題を極めて重要視して、その元凶たる合理化に反対してきたこと、特に昨今の臨調・行革をタテに問答無用の形で合理化と「職場規律」等をおしつけて省みないやり方のなかで、当局が職場の要求に耳をかたむける姿勢に欠け、それが事故につながっていることを鋭く指摘しました。

その上で、合理化が著しい線路悪化をもたらし、急激な人口増に国鉄の施策が追いつかないという千葉局の特情について、どう解決するのかについて解明を求めました。

これに対して局長は、千葉局の特情を認めたうえで「できるだけ早く、できるだけ多く一種踏切に切り替えるよう努力する」との答弁をせざるを得なかったのです。

運転保安確立・動乗勤制度改善にむけさらに闘いを強化しよう

つづいて、布施書記長が、以下の二点について当局の考え方を明らかにするよう求めました。

すなわち、①電化による線路荒廃は、七五年に二度の列車転覆事故を発生させ、これに抗議する運転保安闘争により、われわれは、現行の「線区徐行」をかちとって今日に至っている。

しかし、当局は今回、一方的に「線区徐行」を解除しようとしているが、これは断じて認められない事。②先日、動乗勤で一定の集約を行ったが、これにより次期ダイ改では列車速度があがり、勤

（裏面へつづく）

中野委員長（労働側前列右より2人目）、伊東局長（当局側右より6人目）が出席して行なわれた4月9日の団交では、1,300名の実力闘争を背景に運転保安問題が具体的前進を開始した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！